■吉田松陰　　志士，教育者。短い生涯の中，維新後を担う人材を育成し，自ら切り込み隊長役を務めて，刑死した。
よしだしょういん
富籤流行・・1830＝　　長門国萩郊外の松本村で，藩士杉百合之助の次男に生まれる。母は滝。幼名は虎之助。

高島砲術・・1834＝ 4歳：父の弟で，_毛利家に仕える山鹿流兵学師範吉田大助の養子となり，
滑稽+人情本 1835＝ 5歳：_大助が死去。大次郎と改名して吉田家を継ぎ，以後，兵学師範たるべく，兵学と経学の習得に励む。
_その後も，実家に同居して，叔父玉木文之進から四書五経などの教育を受け，
大塩平八郎乱1837＝ 7歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝ 8歳：_早くも藩校{明倫館}の教授見習となり，家学を教え始め，
蛮社の獄・・1839＝ 9歳：_教授に昇進，
勧進帳初演・1840＝10歳：_藩主に「武教全書」を講じて早熟の秀才であることを認められた。

天保改革弾圧1842＝12歳：_叔父玉木文之進が{松下村塾}を起こすと，その塾生となって，さらに勉学に励むうち，家学の後見人であった藩士山田宇右衛門や山田亦介から，世界の形勢に眼を見開かされる。

阿部正弘首座1845＝15歳：

・・・・・・1848＝18歳：
北斎没・・・1849＝19歳：_外寇御手当御内用掛を命じられ，藩命で海岸防備の実情を視察，さらに，
国定忠治磔・1850＝20歳：_大成願う藩主の意向で，九州を巡遊，陽明学や兵学を学び，オランダ船に乗るなど外国知識を吸収，
尊徳報徳論・1851＝21歳：_西洋兵学を知る必要性を痛感し，藩主に従って江戸に出，佐久間象山に入門したが，直接原書につく勉強法には進まなかった。許可なく藩邸を脱し，翌年にかけて水戸から東北，北陸と遊歴したため，士籍剥奪の処分を受けたが，不憫に思った藩主の配慮で，10年間諸国遊学の許可をもらい，
ペリー来航・1853＝23歳：_ペリー来航に際しては浦賀に出かけて黒船をまのあたりにし，佐久間象山に勧められて海外の状況を実地に見極める決心を固め，長崎でプチャーチンの軍艦に乗ろうともくろんだが行き違いとなって果たさず，
開国開港・・1854＝24歳：*再来中のアメリカ艦に暗夜下田で漕ぎ着けたが，密航を拒否され，岸に送り返されて幕府の役人に自首。江戸の獄に入れられたのち，藩に引き渡し在所に蟄居させるとの判決を受けたが，身柄を引き取った長州藩は，慎重に過ぎて萩の野山獄に投じられる。ここで同獄の囚人に孟子を講じて獄内の気風を一新し，教育者の資質を発揮し始める。
安政大地震・1855＝25歳：*在獄１年余，藩当局も処分の過当を認めて，生家の杉家に預けることに変更され，出獄。他人との接触は禁じられていたが，近隣の子弟で来たり学ぶものが多く，幽室が塾と化した。玉木文之進が始めた{松下村塾}は外叔の久保五郎左衛門に受け継がれていたが，そこの門弟で松陰のもとに来るものが増えたため，いつしか松陰が{松下村塾}の主宰者とみなされ，評判が高まるにつれて萩の城下から通うものも現れる。中国の陽明学者で過激な思想を持つ李卓吾の影響で，次第に激しさを増すようになり，
蕃書調所・・1857＝27歳：*久坂玄瑞と高杉晋作がその代表で，{松下村塾}の双璧と目された。久坂は松陰の妹と結婚した。松陰の講義は時勢を忌憚なく論じるところに特徴があり，それは残された講義録「講孟余話」や「武教全書講録」にもよく現れている。そこに若者が引きつけられ，彼の膝下から多数の志士が育った。明治の元勲伊藤博文，山県有朋，また萩の乱の前原一誠は，みな松陰門下である。この時期，外からは僧黙霖や月性，小浜の梅田雲浜らが文通もしくは来訪して松陰の思想に影響を与えた。
五ヶ国条約・1858＝28歳：_幕府が勅許を得ないままハリスとの間に日米修好通商条約を結ぶと，熱烈な尊王論者であった松陰は，急に反幕府的言動を強めた。ついに老中間部詮勝暗殺の血盟を結ぶに及んで，藩も捨てておけず，借牢の願いを出させて野山獄に再収容。一方，安政の大獄を強行した幕府は，別途に松陰への疑惑をもち，
安政の大獄・1859＝29歳：*江戸へ呼んで伝馬町の獄に投じた。訊問中に老中暗殺計画を漏らしてしまい，斬首刑に処せられた。

疋田啓佑「儒者」，中公シリーズ「日本の名著」，「日本史を変えた人物200人」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，日本の古典名著，